

日本建築学会近畿支部 創立 70 周年記念行事・事業（概要） 関西から考える建築の未来

<主催>近畿支部・創立 70 周年記念事業委員会

近畿支部は、本年度創立 70 周年を迎えます。当支部は、昭和 22（1947）年 11 月 29 日に創立されて以来、会員数では 4,800 名を超える規模となるとともに、支部会員各位の自発的で強力な活動に支えられて、近畿圏において学会支部として大きな役割を果たして参りました。

70 周年の節目にあたり、今日、大量生産・大量消費を基調とした工業社会が限界に直面し、生活の質の高さの実現を目指して、環境との共生や人間相互の絆を大切にす知識社会を構築することが求められています。関西には、豊かな歴史・文化の蓄積があり、今なお濃密な生命活動やコミュニティが残存しており、ここを舞台として展開されてきた建築に関わる理論と実践からは、21 世紀の未来世界を拓く幾多の知見が得られるに違いありません。そこで、近畿支部創立 70 周年記念事業を推進していくにあたって、「関西から考える建築の未来」という統一テーマを設定し、募金活動の推進、記念式典や記念シンポジウムの開催、記念誌の刊行等を行い、関西から世界に情報を発信したいと考えています。多くの皆様に共感をもっていただき、共に建築の未来を探っていきたいと思います。

全国の会員各位の記念行事・事業への積極的なご参加と支部活動に対する厚いご支援をお願い致します。

創立 70 周年記念事業実行委員会 委員長 門内輝行

I. 記念講演会

参加申込 : **<https://goo.gl/forms/NalaveYXqm1XUnB73>**

歴史・文化・人間臭さが色濃く残っている関西から、建築の未来について世界に向けてメッセージを発信したいと思います。そのために、講演会の第 1 部では原広司氏に基調講演いただき、第 2 部ではシンポジウム形式で討論をしていただく予定です。

日 時：11 月 29 日（水）14:00～16:30

会 場：[大阪工業大学梅田キャンパス](#) 3 階 常翔ホール（大阪市北区茶屋町 1-45）

第 1 部 基調講演（14:00～14:50）

原 広司（アトリエファイ建築研究所，東京大学名誉教授）

第 2 部 討論（15:00～16:30）

パネリスト：

原 広司（前掲）

竹原義二（無有建築工房，摂南大学教授）

遠藤克彦（遠藤克彦建築研究所）

コーディネータ：

門内輝行（大阪芸術大学教授，京都大学名誉教授）

定 員：500 名（申込み先着順） 参加費：無料

II. 記念式典

参加申込 : **<https://goo.gl/forms/NalaveYXqm1XUnB73>**

日 時：11 月 29 日（水）16:30～17:00

会 場：[大阪工業大学梅田キャンパス](#) 3 階 常翔ホール

定 員：300 名（申込み先着順） 参加費：無料

III. 記念祝賀会

参加申込 : **<https://goo.gl/forms/NalaveYXqm1XUnB73>**

日 時：11 月 29 日（水）17:30～19:00

会 場：[大阪工業大学梅田キャンパス](#) 21 階 リストランテ翔 21

定 員：100 名（申込み先着順）

会 費：6,000 円（申込時の納入方法にてお支払いください）
※お振込みの場合:申込み後 1 週間以内に指定口座へご入金ください。

IV. 見学会

聴竹居は、真に日本の気候・風土にあった日本人の身体に適した住宅を生涯追い求めた建築家藤井厚二の自邸で、昭和 3（1928）年に建てられました。また、OIT 梅田タワーは学校法人常翔学園 100

周年記念事業として学園のフラッグシップとして計画され、今春に開校しました。この新旧の建物の見学会を開催します。

i）[聴竹居](#)

参加申込 : **定員に達しましたので受付を終了いたしました**

日 時：11 月 25 日（土）10:00、13：00、15：00

集 合：[聴竹居](#) 玄関前（各 15 分前厳守）

解 説：松隈 章（竹中工務店）

定 員：各 20 名、合計 60 名（申込み先着順）

参加費：1,000 円（聴竹居のみ 当日支払い）

ii）大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワー

参加申込 : **定員に達しましたので受付を終了いたしました**

日 時：11 月 29 日（水）12:30～13:45（集合:12:15 厳守）

集 合：[大阪工業大学梅田キャンパス](#) 1 階 ギャラリー

解 説：福原和則（大阪工業大学教授）

定 員：30 名（申込み先着順）

参加費：無料

V. 記念シンポジウム

参加申込 : **<https://goo.gl/forms/crN9VQJHKX0DWtSj>**

「関西から考える建築の未来」を展望するために、5 つのシンポジウムを開催します。具体的には、関西が直面している様々な課題のうち、〈迫りくる巨大災害リスク〉、〈建築・都市デザインのコネクストとしてのアジア〉、〈空間の居心地を育む都市・建築・ランドスケープ〉、〈タクティカル・アーバニズム〉、〈歴史・文化の持続可能性を支えるデザイン〉といった主題を取り上げ、建築の未来を創造する手がかりを探ってみたいと思います。

（パネリスト・会場等が変更になる場合もございますのでご了承下さい。）

第 1 回 「南海トラフ地震による被害と対策－最新の研究成果から考える－」

関西地域が直面する問題の一つに南海トラフ地震があり、連続シンポジウムのテーマの一つとして南海トラフ地震をとりあげ、近畿地方では最も大きな被害が想定される和歌山県において、一般市民を対象に最新の研究成果を元に、その対策について考えるシンポジウムを行う。

共 催：海南市

後 援：和歌山県、和歌山県建築士会、和歌山県建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部和歌山地域会

全体進行・趣旨説明：牧 紀男（京都大学防災研究所教授）

基調講演：

室崎益輝（兵庫県立大学教授，神戸大学名誉教授）

パネリスト：

澤田雅浩（兵庫県立大学准教授）

高橋典之（東北大学准教授）

西野智研（京都大学防災研究所准教授）

コーディネータ：

平田隆行（和歌山大学准教授）

日時： 11 月 4 日（土）13:30～16:30

会場：[海南市民交流センター](#)（海南市下津町下津 500）

定 員：300 名（申込み先着順）

参加費：無料（資料は当日実費頒布）

第 2 回 「アジアのデザイン～東南アジアの建築・都市デザインから関西を考える～」

20 世紀まで京都、神戸、大阪に代表されるように、関西は建築・都市デザインの先駆的かつ実験的な都市を多様に有していた。しかし、21 世紀に入り、関西は魅力的な建築・都市デザインを生み出し続けているかと問わなければならない状況にあるのではなかるうか。他方、シンガポールのレールコリドーに代表されるように、東南アジアの諸都市では、地域的文脈を踏まえた先進的な建築・都市デザインがつけられている。小さなプロジェクトでありながら、社会的意味を問う新鮮な建築が生まれている。世界中の知恵を集めて行われる国家的な都市計画コンペティションも多い。そこで、東南アジアの建築・都市デザインプロジェクトを通して、これからの関西の都市像、アジアの中での関西を論じるシンポジウムを行う。

そして、関西から社会に問いかけるような建築デザインとはどのようなものか、関西においてこれからの都市の方向性を指し示すようなプロジェクトをどうすればつくれるのかを議論したいと思う。

パネリスト：

共 催：関西大学 環境都市工学部 建築学科

田中 互（日建設計）

宮内智久（a＋u 副編集長，宮内智久建築都市研究所，シンガポール国立大学上級講師）

芦澤竜一（芦澤竜一建築設計事務所，滋賀県立大学教授）

コーディネータ：

木下 光（関西大学教授）

松岡 聡（松岡聡田村裕希，近畿大学教授）

日時： 11 月 25 日（土）13:00～17:00

会場：[関西大学梅田キャンパス](#) 4 階（大阪市北区鶴野町 1-5）

定 員：120 名（申込み先着順）

参加費：無料（資料は当日実費頒布）

第 3 回 「空間の居心地～都市、建築、ランドスケープにおける心地よい場所について～」

都市、建築、ランドスケープの「空間の居心地」は、刻々と移り変わる環境や経年的な空間の変質、体験者の心境や記憶と深く関わりながら、視覚的な事象のみならず、素材感や音、匂いなどの複合的な感受性によって揺れ動いていく。本シンポジウムでは、雑誌などの現在のメディアでは扱いきれない「心地よさ」の解説を作り手の感触や思考、方法を紐解くことによって試みる。建築の意匠、構造、設備（環境工学）、都市（社会）などの視点による実践的な事例を挙げながらパネルディスカッションを行い、「心地よい場所」のありかを探ってみることにしたい。

基調講演：

赤松佳珠子（CAI，法政大学教授）

パネリスト：

赤松佳珠子（前掲）

荻原廣高（ARUP，大阪工業大学客員教授）

末光弘和（SUEP.）

竹林英樹（神戸大学准教授）

コーディネータ：

長田直之（ICU，奈良女子大学准教授）

長濱伸貴（E-DESIGN，神戸芸術工科大学教授）

日 時：12 月 2 日（土）13:00～17:00

会 場：[KIITO デザイン・クリエイティブセンター神戸](#)（神戸市中央区小野浜町 1-4）

定 員：100 名（申込み先着順）

参加費：無料（資料は当日実費頒布）

第 4 回 「魅力ある“場”をどう創るか－関西における新たなアーバニズムの可能性をさぐる」

戦後の東京一極集中により、関西の存在感は一貫して低下してきた。その間、関西にも数々のビッグプロジェクトが企画されたが“カンフル剤”にとどまり、東京の後を追う「戦略的都市計画」の再考が迫られている。そうしたなかで近年、「戦術的に」都市を変えていく試みが注目されており、長期的戦略に基づいた短期的プロジェクト（タクティカル・アーバニズム）の新しい動きが世界的に注目されている。こうした試みは、実は長い歴史と厚い文化の蓄積を有する関西との相性がよく、東京にはない新たな「場」の魅力を創造する可能性を秘めているのではないだろうか。

本シンポジウムでは、関西の都市－特に大阪・京都・神戸－における「タクティカル・アーバニズム」の試みや今後の展開の可能性などについて、建築以外の多様な視点をまじえつつ、関西における新たな「場」の魅力や価値とは何かをさぐりたい。

基調講演：

出口 敦（東京大学教授）

パネリスト：

出口 敦（前掲）

小池志保子（ウズラボ，大阪市立大学准教授）

泉山塁威（ソトノバ共同代表理事・編集長，東京大学助教）

コーディネータ：

吉村英祐（大阪工業大学教授）

日時：12 月 9 日（土）13:00～16:30

会場：[大阪工業大学梅田キャンパス](#) 2 階セミナー室 2 0 4（大阪市北区茶屋町 1-45）

定 員：100 名（申込み先着順）

参加費：無料（資料は当日実費頒布）

第 5 回 「持続するデザインの教科書～都市、ランドスケープ、建築の知恵に学ぶ～」

今日ほど、一過性でないデザインが求められている時代はないだろう。人間が、人間を幸せにするためにどのように物を構築するかがデザインだとすると、構築された物と人間との関係を幸せなものであり続けさせることもまた、大切なデザインだからである。

従来のように、ある瞬間に完成し、その時に最大の刺激と効能を備えた物のデザインが役割だった時代には、都市や建物やその外部空間といった専門家の区分も明快だった。また同様に、誕生の瞬間から実用性が減衰し始めたとされる物をクリアランスする「再開発」と、それに実用性と別の価値を与える「保存」も、根を一つにしなから、個別の領域を築いてきた。

しかし、近年は別の萌芽が見られる。建物を使い続けるための実践は、保存やリノベーションの枠組みを横断し、動的な都市の研究やランドスケープデザインの展開は、構築された物と人間との関係が幸せなものであり続けるための知恵を他領域にも与える。

今、これまでの区分を超えた対話が必要だろう。幸いにも、歴史的・文化的な蓄積と持続性を備えた関西は、それに好適な場所だ。本シンポジウムのパネリストは、建築、都市、ランドスケープと領域はさまざまだが、学術的かつ実践的、そして関西から多方面で活躍する専門家である点で共通している。活発な議論を通して、持続するデザインの教科書の 1 ページを記したい。

共 催：京都工芸繊維大学

パネリスト：

中川 理（京都工芸繊維大学教授）

松隈 章（竹中工務店）

宮城俊作（PLACEMEDIA，放送大学教授）

宮部浩幸（近畿大学准教授）

コーディネータ：

倉方 俊輔（大阪市立大学准教授）

日 時：12 月 17 日（日）13:30～17:00（開場 13:00）

会 場：[京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス](#) 大学センターホール（京都市左京区松ヶ崎橋上町 1）

定 員：750 名（申込み先着順）

参加費：無料（資料は当日実費頒布）

VI. 記念出版物「日本建築学会近畿支部 70 年 2007-2017」

頁 数：32 頁

部 数：2,000 部程度

内 容：1）支部長挨拶
2）歴代支部長
3）歴代常議員
4）実行委員長挨拶
5）70 周年記念事業委員
6）70 周年記念事業（講演会・シンポ）
7）特色ある活動 1「親と子の都市と建築教室(京都・大阪)、子ども教育支援建築会議(大会)」
8）特色ある活動 2「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」
9）特色ある活動 3「保存活動」
10) 支部活動状況
11) 作品選奨受賞作品

問合せ－近畿支部事務局まで

TEL：06-6443-0538 FAX：06-6443-3144

E-mail：ajj-kinki@kfd.biglobe.ne.jp